

事業所における自己評価結果（児発）

公表：平成 年 月 日

事業所名： いっぱのひかり

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7		余裕のあるスペースで支援できている	
	②	職員の配置数は適切である	7		人員基準配置に沿って配置	
	③	生活空間は、本人に分かりやすく構造化された環境になっている。また、障害特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達への配慮が適切になされている。	7		<ul style="list-style-type: none"> ・子供達が落ち着く空間、発散できる空間と、静と動の区別をつけている。 ・視覚的にわかりやすい空間作り ・子供たちの状況や活動内容によって部屋を使い分け支援できている。 	
業務改善	④	業務改善を進める為のPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に広く職員が参画している	6	1	定期的なミーティングを行い、問題提起、解決を職員全体で取り組んでいる	
	⑤	保護者向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている。	7			
	⑥	事業所向け自己評価及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うと共にその結果による支援の質の評価及び改善の内容を事業所の会報やホームページ等で公開している。	7		HP公開	
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		7	第三者評価はない	
適切な支援の提供	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7		<ul style="list-style-type: none"> ・内外研修の参加 ・研修後の報告 	
	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	5	2	概ねできている	
	⑩	子どもの適応行動の状況を図る為に、標準化されたアセスメントツールをしようしている	6	1		
	⑪	児童発達支援計画には、児童発達支援がトライアの『児童発達支援の提供すべき支援』『発達支援(本人支援及び移行支援)』『家族支援』『地域支援』で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている。	6	1		

適切な支援の提供	⑫	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	6	1	計画を職員間で確認し、実行している。	
	⑬	活動プログラムの立案をチームで行っている	7			
	⑭	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7		・協力して立案。感覚、社会スキル等総合的な関りができるよう工夫。 ・研修で学んだ事を取り入れマンネリ化防止。	
	⑮	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせさせて支援計画を作成している	7		・OT、ビジョントレーニング、セカンドステップ、摂食指導など多様な支援を行っている。	
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7		毎日、朝礼を実施	
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5	2	問題提起があったり、支援について情報共有s振り返りを行いながら、解決策の検討をその都度行っている。	
	⑲	日々の支援に関して正しく記録をとる事を徹底し、支援の検証・改善につなげている	7		毎日記録し、月まとめも行う事で成長確認を行えている。	
	⑳	定期的にモニタリングを行い、支援計画の見直しの必要性を判断している	7			
関係機関や保護者との連携	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7		担当職員が参加している	
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	7		自立支援協議会、担会にて連携を図っている。	
	㉔	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7		担会や送迎時に担任等おt情報の共有を図り、必要な協議を行っている。	
	㉕	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7		担会を通して引継ぎ等行っている。	

関係機関や保護者	㉖	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	7		必要に応じて相談等している	
	㉗	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	7		全利用児が並行通園	
	㉘	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している。	7		担当職員が参加	

保護者への説明責任等	②⑨	日頃から子どもの状況を保護者と伝えあい、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている。	7		連絡帳、LINE、面談を通して発達についての共通理解を図り、必要なアドバイス等を行っている。	
	③⑩	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている。	7		年間計画で、学びの時間、茶話会を計画・実施している。	
	③⑪	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている。	7		契約時に実施	
	③⑫	児童発達支援がトライアの『児童発達支援の提供すべき支援』のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された『児童発達支援計画』を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている。	7		契約時に実施	
	③⑬	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている。	7		子供の状況や連絡帳の内容から面談の必要性を感じる時には早急に対応している。	
	③⑭	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している。	7		会の発足はないが、茶話会等を通じて交流が図れるようにしている	
	③⑮	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備すると共に、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している。	7		適宜行えている	
	③⑯	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している。	7		毎月お便りの発行をし、活動状況等写真も添えて伝える事ができている。	
	③⑰	個人情報の取り扱いに十分注意している。	7			
	③⑱	障害のある子どもや保護者との意思疎通や情報伝達の為の配慮をしている。	7		連絡帳や面談でできている	
	③⑲	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている。	4	3	節分、クリスマス会に青年団の協力を得ている	今後地域資源を活用し交流が図れるようにしていきたい。

非常時	④⑩	緊急時の対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している。	6	1	訓練は定期的実施し、お便りで報告。	
	④⑪	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている。	6	1	定期的実践訓練、学びなど行っている	
	④⑫	事前に、予防接種やてんかん発作等の子どもの状況を確認している。	6	1		

の 対 応	④③	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている。	7		利用時に確認し、食事提供時は2重チェックしている。	
	④④	ヒヤリハット事例集を作成して、事業所内で共有している。	4	3	事例作成までは行っていない。	
	④⑤	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている。	7		年1回実施	
	④⑥	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している。	5	2	対象児がいないが、そのような事態の時には適切に対応する	